

## フラテ106号原稿 神経生理学教室

### 田中真樹(教授)

今年もいろいろ動きがありました。休学していた松山院生が4月から復学し、6年の新川くんが医学院 MD-PhD コースに進み、10月からは中国山東大学で外科研修を終えた李さんが研究生となりました。松山院生は学位論文に向け、新川くんはひとまず国家試験に向け、李さんは来春の大学院入学に向けて頑張っています。一方、医学部生時代から精力的に研究を進めてきた鈴木助教が1月からニューヨークに留学することになりました。引き続きサルを対象にした脳科学研究を続けるということで、あっと驚く発見をしてくれるものと今から楽しみにしています。教室では、事務補助員の鈴木さん、研究補助員の宮口さんのサポートのもと、竹谷助教、亀田院生、澤頭院生がそれぞれ小脳、大脳基底核、前頭連合野を対象に研究を進めています。亀田院生は今年初めて筆頭著者の論文を仕上げました。また、5年生の中村くん、1年生の安部くんも実験に携わり、毎週水曜日の抄読会には3年生の土田くんや小樽市立病院神経内科の井原先生なども参加しています。最近ふと気づくといつの間にか男所帯になっており、李さんをはじめ女性研究者やその卵の今後の活躍を期待しています。私自身は、この11月で教授になって丸9年となりました。来年はかつての留学先の恩師などをお招きしてシンポジウムを開催する予定でもあり、記念すべき年にしたいと思います。今年はサクラマスもカラフトマスも秋アジも不調でしたが、こちらも来年は飛躍の年にしたいと思います。

### 竹谷隆司(助教)

週末のスーパー。鶏の手羽先や手羽元が驚くほど安くなっていることがありますね。塩コショウを揉みこんでオーブントースターでじっくり焼くだけでもとても美味しいですが、手羽4~5本を大きな鍋(圧力鍋がベター)で1時間ほど煮込むと骨と身が分離できるほどホロホロになり、身を取り出して更に煮込み続けると、旨みが濃縮された鶏がらスープが完成するのです(取り出した肉は酢醤油でいただきます)。昆布だしと唐辛子、塩と少々酒と2~3滴の醤油、白菜、椎茸、葱を加え、煮立ったところに鶏もも肉を投入。時間はかかりますが手間はかからない、鶏ガラを使わない簡易版の水炊きの完成です。生姜とポン酢でお召し上がりください。

### 鈴木智貴(助教)

冷える朝 墨は朱に溶け車輪待つ 胡桃を置いてつんと前向き

#### 鈴木真理(事務補助員)

春から子犬を飼い始めました。仕事から帰宅すると、高速でしっぽを振って飛びついてきて、とても可愛いです。息子は思春期で無口になり、もっぱら話し相手は子犬です。喜ぶのが嬉しくて、ついつい、おやつをあげ過ぎます。最近は、夜のお散歩を一緒にしながら、趣味の句作を楽しんでいます。

犬の子の瞳のまるし栗名月

#### 宮口尚絵(技術補助員)

とりを飼い始めました。2 か月で自分の名前が言えるようになりました。癒されます。息子の名前をお怒りモードの口調でさげぶようになるのも近いと思われま

#### 松山圭(博士4年)

体調を崩して長い間休学していましたが、今年の四月に復学しました。復学してからは周りの人たちの助けを借りて論文をまとめています。自分のからだと相談しながら少しずつ進めています。去年と比べると今年はだいぶ良い年になったと思います。来年はもっと良い年にしていきたいと願っています。

#### 亀田将史(博士3年)

海外とか行ってみても楽しいのは結局地元を感じたような1年でした。でも Dubai は行ってみたいです。

#### 澤頭亮(博士2年)

人からどう見られているかはある種最大の関心事であり、神経症患者の頭の中を四六時中埋め尽くしているものだ。10年前には小栗旬そっくりと言われた私も今やアルコ&ピースの平子そっくりと言われる始末である。時の流れは実に速い。

#### 新川幸一郎(6年)

(ちゃんと卒業していれば)この春から正式に博士課程の院生となります。一人前の研究者目指していろいろとやってみたい研究、勉強してみたいことがあるので、充実した毎日になりそうです。今はとりあえず国試に受かることを願っています。

### 中村俊太郎(5年)

抄読会にて勉強させていただくようになって以来、早くも3年が経とうとしています。本年度は少なからず実験のお手伝いをさせていただいた一方で、実習が本格的に始まり充実しつつももっと時間を上手に使う術を身に着けたいと強く感じた一年となりました。学生生活も残り一年、悔いが残らないよう過ごしていきたいと思います。

### 李 麗(研究生)

九月に来日してから、神経生理学教室で研究を始めました。そして、今日本語を勉強しています。札幌も北大も静かで綺麗ですが、ちょっと寒いです。先生も先輩も優秀ですから、勤勉な人になりたいです。

### 土田直司(3年)

昨年抄読会に参加させていただいております。まだまだ未熟ですが、皆様に温かく迎えられ、日々勉強させていただいております。意識や知能の問題などに関心がありますが、そのためには実際の人間(を含む動物)の体内で何が生じているかをきちんと実験的に理解することが大切だろうと思っています。

私自身は、学士入学での再入学組です。以前は銀行に勤めており、修士を物理で、博士を統計学で取りました。医学部は、当初は不安でしたが、始まってみるととても面白く、もっと若い時に来ておけばと思ったりしています。札幌に住むのも初めてです。以前住んでいた NY と比べて、寒さはましですが、雪の多さには大変な思いをしています。

### 安部楓(1年)

以前は哲学をやっていました。自己とは何であるか、意識とは何であるかといった哲学的問を、実験的に検証できる形に落とし込めないか、模索中です。週末は山に登っています。ほぼ毎日スタバに行くほどのコーヒー好き。最近ついにコーヒーメーカーを買いました。

### 井原達夫(小樽市立病院神経内科)

唯一の部外者で月に 1-2 回セミナーを聴講しており数年経っています。長年地方病院

に勤務した後からの関わりで細かい議論は理解可能範囲を超えていながらも数年来の研究の集積は目覚ましいようです。曲がりなりにも神経と名の付く者として基本的なサイエンス領域の知見の現状に興味を向ける意義はあると考えます。精神・神経疾患と接点の広いテーマも含め未開拓の領域もまだ多いと思われるので浅くても幅広く関心を持ち続けたいと思います。